

花橋

発行日

令和2年10月22日

第7号

発行・編集

三崎高校総務課

プレゼント

人権同和教育・研修課長 大西 純

九月二十一日敬老の日。「今年も敬老の日をお祝いできる」と楽しみにしていたのに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、敬老の日の行事やイベントは中止になりました。このような状況の中でも、いつもお世話になっている大好きなおじいちゃんおばあちゃんをお祝いで笑顔になってもらいたい、今だからできる形で「ありがとう」を届けたい、そう思いました。「花は咲く」をみんなで歌ってリモート撮影して動画を届けよう！題して「おじいちゃん おばあちゃん ありがとう プロジェクト」を立ち上げました。三崎保育所、三崎小学校、三崎中学校に呼びかけるとたくさんの方が参加してくれ総勢七十三名でこのプロジェクトは動き始めました。体育祭が終わってすぐ音楽室で、吹奏楽部とOJで伴奏音源の録音をしました。その音源をもとに、声をのせていきます。保育所のみんなの元気な声、小学生の素直な声、中学生の大人の声、そして吹奏楽部の自信に満ちた声（笑）それぞれの音が、色がすてきに混ざりあい、三崎の子どもたちの声のプレゼントが出来上がりました。このような時期だからこそ、今できる形でみんなまでひとつになって「ありがとう」を届けることができたことに心から感謝の気持ちでいっぱいでした。

後日今回のプロジェクトが、あいテレビで取材していただけることになり、それを受け、伊方つわぶき荘で撮影日に合わせて上映をしていただけることになりました。急に決まったことでしたが、伊方つわぶき荘の職員の方々が、早急に対応してくれました。上映後すぐ伊方つわぶき荘職員で、三崎高校のOBである菊池さんからメッセージをいただきました。

「こんばんは！無事終了しました。一言、利用者さん泣いていました。それを見て感極まりました」

このメッセージを見た瞬間、わたしも涙があふれました。ただただおじいちゃんおばあちゃんに笑顔になってもらいたい、少しでも元気になってもらえたら・・・その思いが、三崎のこどもたちの気持ちが、おじいちゃんおばあちゃんの心に届いたと思うと、本当にうれしかったです。特に、「生きていく意欲ができました」と涙ながらにおっしゃってくれたおばあちゃんの言葉が、今でも心に響いています。私たちが「届けたい」と思って取り組んだこのプロジェクトでしたが、反対にたくさんの方のことを「届けてもらった」ように思います。

相手を思い相手の心に届けると、それ以上の温かさで自分の心を包んでくれる。相手を思うって本当です。相手も思い相手の心に届けると、それ以上の温かさで自分の心を包んでくれる。相手を思うって伝え合う・・・相手を思って行動すると、素敵なプレゼントが自分の心に届くって、うれしいですね。もっともっとプレゼントであふれた学校になるといいなと思います。

生徒会役員

9月23日に生徒会役員選挙がありました。会長に21Rの島田晃佑さん、副会長に11Rの梶原凜さん、11Rの中村理歩さんが当選しました。また、書記や会計として生徒会を担う生徒が決まりました。三崎高校の活性化や生徒の意見の反映などを公約として10月から活動を始めています。先輩から引き継いだ本校の良さを伸ばす働きに期待しています。



未咲輝ロード整備

10月1日に国道197号線から学校に向かう未咲輝ロードの整備を行いました。道路の清掃を行ったほか、生徒一人一人の目標を表現した絵を掲示しました。この絵には、学校生活への意気込みが力強く描かれています。

10月31日の記念式や11月1日の文化祭にお越しの際には、じっくりと生徒の力作をご覧ください。



